

延岡市が閉館記念式典

感謝の演奏、合唱で別れ

延岡市の「野口記念館」の閉館記念式典が2日、同所で開かれた。同館は、延岡の文化の殿堂として長く市民に親しまれたが、老朽化による新館建て替え整備に伴い、64年間の歴史に幕を下ろす。式典には市や関係者、市民ら約400人が出席。感謝を込めた演奏や合唱をささげ、別れを惜しんだ。

オープニングは、延岡合唱団、旭化成延岡合唱団の5団体合同で「延岡市歌」を合唱。約130人の澄み切った美しい歌声を館内に響かせた。続いて、野口記念館の歩みを紹介するスライド上映に合わせ、延岡フィ



野口記念館の閉館記念式典。最後はステージと客席が一体となり、感謝の歌声をささげた（2日）

ルハーモニウム管弦楽団が「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第1、3楽章（モーツァルト）、「G線上のアリア」（バッハ）、「四季」より「冬」第2楽章（ヴィヴァルディ）の3曲を弦楽四重奏で演奏。

「感謝の歌」では、延岡少年少女合唱団が、郷土の歌人・若山牧水作詞の「タリヤ」めだかこつこなと3曲、ヴォーチェ・のべおかとのべおか児童合唱団が合同で「ありがとら」など3曲、延岡混声合唱団が「ハナミズキ」、旭化成延岡合唱団が「旭化成社歌」など3曲を合唱し、客席を魅了した。

最後は、合唱5団体の計130人が再びステージに上がり、迫力の歌声で「大地讃頌（さんしゅう）」を合唱。エンディングの一曲は、さあに観客席の市民もその場に立って「五ヶ瀬の流れに」を大合唱。64年間にわたる

延岡支社の濱井史支社長は「今後もますますの信頼関係と共存共栄、延岡と旭化成の発展を祈念したい」と話した。ステージで歌った延岡少年少女合唱団の柴田利音さん（12）、「岡岡小6」田中夢奈さん（11）、「同」甲斐夕花さん（11）、「旭小6」は、「野口記念館は音楽祭や合唱祭で何回も歌ってきたので、思い出がいっぱい。新館も多くの人が利用しやすい記念館になってほしい」と声をそろえていく。

式典終了後は全館が開放され、市民らが舞台や、開館当時の古い映写機が置かれた映写室、楽屋など、日ごろは見る機会のない部分を興味深く見学。当時、建築技術の粋を結集した最新の近代の建物と評された施設の隅々を、カメラで撮影するなどしていた。

野口記念館は1955年、旭化成工業（現旭化成）から、同社の創業30周年と市制20周年を記念して寄贈された。延岡の文化の拠点として、長く

閉館後の野口記念館は、7月から建物の解体作業が本格化する。新館は、基本設計や実施設計を経て来夏に着工し、2021年度完成、22年中の開館を目指す。

2019.6.3